

和歌山工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	企業実践講座	
科目基礎情報							
科目番号	0085		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 1		
開設学科	環境都市工学科		対象学年		4		
開設期	後期		週時間数		1		
教科書/教材	プリント配布						
担当教員	小池 信昭						
到達目標							
企業活動の概要を理解し，説明できる。 企業を取り巻く環境や制度の概要を理解し，説明できる。 企業を維持するための施策や活動を理解し，説明できる。 企業の状況を表すデータの概略を理解し，説明できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
企業活動の概要		企業活動の概要を理解し，説明でき活用できる。		企業活動の概要を理解し，説明できる。		企業活動の概要を理解，説明できない。	
企業を取り巻く環境や制度の概要		企業を取り巻く環境や制度の概要を理解し，説明し活用できる。		企業を取り巻く環境や制度の概要を理解し，説明できる。		企業を取り巻く環境や制度の概要を理解，説明できない。	
企業を維持するための施策や活動		企業を維持するための施策や活動を理解し，説明し活用できる。		企業を維持するための施策や活動を理解し，説明できる。		企業を維持するための施策や活動を理解，説明できない。	
企業の状況を表すデータの概略		企業の状況を表すデータの概略を理解し，説明し活用できる。		企業の状況を表すデータの概略を理解し，説明できる。		企業の状況を表すデータの概略を理解，説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
A B							
教育方法等							
概要	この科目は企業における経営、研究、生産管理等の実務経験者からその経験を活かして講義形式で授業を行うものである。実際の企業活動の概要について学ぶ。また企業を取り巻く環境や制度、企業を維持するための種々の施策や活動について、実例をもとに学習する。更に企業の状況を表すデータの読み方を理解する。						
授業の進め方・方法	外部講師による講義形式。						
注意点	(COC) 毎週講師が代わるため、出席することが重要であることと、レポート評価となるためレポートの提出が重要となる。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション、事業（授業）説明、講師陣紹介		オリエンテーション、事業（授業）説明、講師陣紹介		
		2週	和歌山県の現状		和歌山県の現状		
		3週	企業活動の概要（企業理念等）		企業活動の概要（企業理念等）		
		4週	社会人としての常識、マナー		社会人としての常識、マナー		
		5週	充実した人生を送るために・ものづくりの変貌		充実した人生を送るために・ものづくりの変貌		
		6週	工場生産の実際		工場生産の実際		
		7週	起業するには（資金、従業員、届け出等）		起業するには（資金、従業員、届け出等）		
		8週	製品開発の手法と実際		製品開発の手法と実際		
	4thQ	9週	e コーマスの今/チーム・組織について		e コーマスの今/チーム・組織について		
		10週	企業組織の概要（取締役会、事業部制、部課制等）		企業組織の概要（取締役会、事業部制、部課制等）		
		11週	品質保証の実際（Ⅰ）		品質保証の実際（Ⅰ）		
		12週	品質保証の実際（Ⅱ）		品質保証の実際（Ⅱ）		
		13週	企業の地域活性化に向けた取組		企業の地域活性化に向けた取組		
		14週	企業における情報管理		企業における情報管理		
		15週	調整中		調整中		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。		3	後10,後11
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。		3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後16
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。		3	後2,後3

			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	後2,後3
			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	後2,後3
			チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	後2,後3
			リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	後2,後3,後14,後16
			適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	後14,後16
			リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	後10,後11,後14,後16
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。	3	後4,後5,後6,後7,後8,後9
			企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	後4,後5,後6,後7
			企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	後10,後11
			企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3	後2,後3,後10,後11
			企業には社会的責任があることを認識している。	3	後2,後3,後12,後13
			企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3	後8,後9,後12,後13
			企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3	後4,後5,後6,後7
評価割合					
			レポート	合計	
総合評価割合			100	100	
配点			100	100	